

# 留学生と創る！！「Cool Japan 和食職人文化読本」制作プロジェクト(伝統文化継承など今日的課題の観点から)

## 1 目的・概要

### 概要

このプロジェクトでは、留学生の日本語授業で使用してもらうことを最終目標とし、“Cool Japan”として注目を集める「和食」をテーマに、1年かけて日本語授業の副教材（読本）を制作しました。この1年間で、3組のゲストスピーカー、15組の取材先、同志社大学の留学生の方々といった様々な視点から「和食」を学んできました。そしてこの学びを食材、だし・調味料、家庭料理、和食職人の4つの章に分けて編集しました。留学生や実際に使ってくださいの先生のことを考えた、分かりやすく、和食の魅力が詰まった1冊を完成させました。

### 目的

「私たちが、歴史、伝統、精神に基づく和食の真髄と今日の和食文化の多様性を学び、学生視点で留学生に発信する。この読本をきっかけに、留学生の日本文化への気づきと和食の魅力を自国で共有してもらう。さらに守るべき伝統を受け継ぐ中で、世界へ広がるこれからの和食文化の創造へ繋げる」ということを目的として1年間活動しました。



### Annual Schedule

2019年	4月	チームビルディング、文化庁の吉野さん・木乃婦の高橋さんによる講演
	5月	(株)リーフ・パブリケーションズ訪問、留学生とディスカッション、目的決め
	6月	JETROの石原さんによる講演、日本文化体験ツアー、読本の構成決め
	7月	取材先決め、留学生模擬授業、春学期成果報告会
	8月	夏合宿、取材（京のふるさと産品協会、室町和久傳、(株)本田味噌本店、森田農園）
	9月	川床・和食体験ツアー、「日本の献立を考えよう！」イベント 取材（(株)飯尾醸造、丸中醤油(株)、宝酒造(株)、味の素(株)、木乃婦、もち料理きた村、(株)菊の井、龍谷大学、一般財団法人日本食育者協会）
	10月	読本作成開始、留学生チェック（2回）
	11月	読本作成、留学生チェック（2回）、「和食とは」履修生ディスカッション、留学生ディスカッション、日本語の先生チェック（3回）
	12月	読本作成、読本を用いた模擬授業の実施、和食文化体験イベント、SNS開設
2020年	1月	読本最終調整、読本配布、秋学期成果報告会

## 2 成果達成度

### 春学期

春学期の成果は3つあります。まず1つ目は読本の方向性の統一としてコンセプト・目的を決定できたことです。各履修生が様々に持っている、この読本作りを通して何を達成したいのかのイメージを最初に統一し、同じ方向を向いて今後の作業を進めていけるようにしました。時間はかかりましたが、悩み、立ち止まった時に何度も助けられた目的・コンセプトです。



2つ目は、3名のゲストスピーカーの講演によって、和食に対するイメージや和食の現状の把握を行なったことです。歴史や科学、ビジネスなど様々な視点から学びを得ました。

3つ目は、留学生のニーズや興味を把握できたことです。ターゲットである留学生の需要に応じた読本を作りたいと思ったからです。具体的には、授業と一緒に和食についてのディスカッション、日本文化体験ツアーを実施しました。留学生の皆さんに学びを届けると共に、私たちも、夏休み中の取材や秋学期の本格的な読本制作に向けてのヒントをたくさん得ました。

### 秋学期

秋学期も春学期と同様に、3つの成果が挙げられます。まず一つ目は学生視点で学べたことです。夏休み中に読本の中の章を担当する班に分かれて取材先を決め、合計で14カ所の取材先に伺いました。様々な方から聞いたお話を私たちなりの視点で読本に還元しました。その際、校閲やデザインなど、班に分かれて作業を進めました。



2つ目は60名以上の留学生との交流が出来たことです。デザインや文章の難易度チェックや、実際に読本を用いた模擬授業に協力していただきました。履修生の中に留学生がいなかったため、彼らとの交流は私たちが特に大切にしていた部分です。

3つ目は体験を通して和食を発信できたことです。川床料理のお店で留学生と一緒に職人の方のお話を聴く体験をしたり、4つの章の班ごとに体験型の学びができるイベントを実施したりしました。

どちらも留学生と楽しく学びを共有することができ、高い満足度も獲得することが出来ました。

秋学期は、春学期以上に各履修生が様々な仕事を分担して行いました。大変なことも多かったです。チームで一つのことを成し遂げる上での難しさや大切なことをたくさん学びました。結束力と責任感のある皆とだからこそ、1年間頑張ることが出来たと思います。



# 3 プロジェクトを通じて

このプロジェクトを通して、多くの人に出会い、「和食」を取り巻く世界について多くの学びを得ました。そしてアウトプットとして私たちが学んだ「和食」について模擬授業やイベントで留学生に伝えることができ、インプットとのバランスが取れていたことはプロジェクト成功の1つだと思います。

それだけではありません。この1年間で初めて出会うメンバーで、様々な想いが詰まった1冊の本を作り上げることができたのは、チームワークと信頼関係があったからではないでしょうか。チームワークと信頼関係は一朝一夕で築き上げることはできません。春学期はチームのモチベーションを保つこと



に必死で本当に読本が完成するのか不安でした。しかし、夏休みの合宿や、授業外での集まりを通してチーム全体のビジョンが明確になり、秋学期は春学期と比べてチームワークと一人一人の主体性が高くなったと感じました。読本制作は決してスムーズに進むことはなく、全員の思い描く理想と現実のギャップにより、課題がたくさん生まれ、悩む事もありました。しかし現実を受け入れ予想外の出来事にもみまわれましたが変化に順応できたのはそれぞれが協力し支えあったからではないかと思えます。また、お互いが信じ合い責任を持って役割を担っていたからこそ、乗り越えることができました。最後に、私たちが大切にしていたことは、1つひとつの活動を振り返ることです。模擬授業やイベントでは、そこでどうしたらより良いものができるかをフィードバックし、留学生の意見も取り入れて次に改善していったことで、留学生の満足度も高く保てたと思えます。

このプロジェクト活動は、時には辛い時期もありました。しかし毎日が刺激的で新鮮で人生で1番充実した1年になったのではないかと思います。そして自分を見つめ直し、成長させるきっかけにもなったと思えます。素晴らしいチームワークと最高のメンバーによって完成した、これまでの集大成であるこの読本は私たちの宝物です。この活動を通して出会った大切なご縁や経験を大切にそしてさらに成長できるように頑張りたいと思えます。



## 編集後記

私たちは1年間の読本制作の中で、多様な国からの留学生の皆様との交流、また様々な立場から和食文化を創り上げている方々への取材を通じ、沢山の学びと貴重な経験を得ました。これらを活かしながら、実際に副教材として使用していただくことを考え、試行錯誤を繰り返しながら、より質の高い読本を目指しました。学生一丸となって作り上げたこの読本をきっかけに、和食文化がより世界に広がることを願っています。

最後に、この1年間、読本制作にあたり取材にご協力いただいた皆様へ心より感謝申し上げます。このプロジェクトで得た貴重な学びや経験をこれからの人生で活かしていきたいと思えます。1年間本当にありがとうございました。

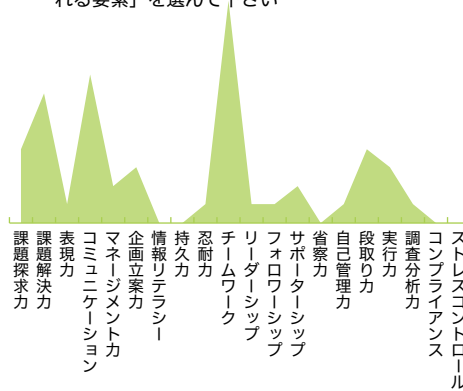
## プロジェクトメンバー

萩原 菜々子(文3) 大菅 彩乃(文3) 坂田 茉世(文3) 山田 郁(文3) 千田 人温(文2) 赤木 琴音(法2)  
本間 鼓乃美(法2) 北村 萌(商2) 稲員 茉莉(政策3) 福永 裕香(政策2) 河尻 潤之助(政策2)  
植田 百香(グローバル地域文化3) 笠田 姫衣(グローバル地域文化3) 吉岡 あや音(グローバル地域文化3)  
鯉田 涼香(グローバル地域文化3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

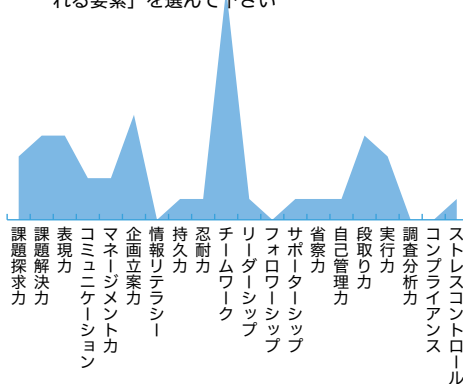
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

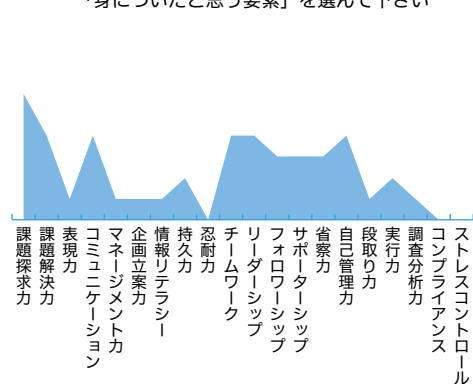


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

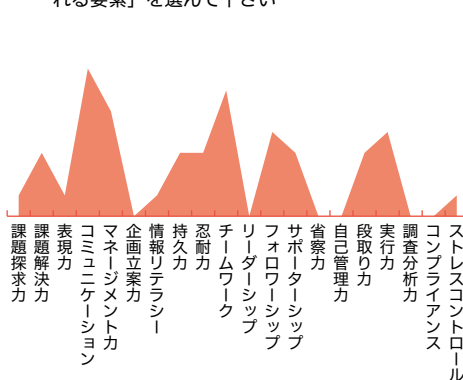


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

